

[野菜部門]

2. トマト葉かび病の防除に効果的な殺菌剤散布時期

[要約]

初発生時期と病勢進展時期の始期に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病防除に有効である。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

岡山県の雨除け栽培トマトにおける葉かび病の初発生時期は6月下旬～7月上旬、病勢進展時期は7月下旬～8月上旬である。一方、これまでに選抜した有効殺菌剤は治療効果に比べて予防効果が高い。そこで、生産者慣行防除に加えて、初発生時期および病勢進展時期に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系の効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．生産者慣行防除区は7月21日以降発病が増加する（図1）。これに対し、6月下旬（初発生時期の始期）と7月下旬（病勢進展時期の始期）にアフエットフロアブルを散布するA区、にアフエットフロアブル にベルコートフロアブルを散布するB区、にダコニール1000 にアフエットフロアブルを散布するC区は、8月18日までほとんど発病が認められない（図2）。
- 2．各区とも8月31日には発病が増加するが、発病度はほぼ同じで、薬剤の違いによる差はない（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．殺菌剤散布の際、葉の裏側や新しく展開した葉にも必要十分な薬液がかかるよう、丁寧な散布に努める。

[具体的データ]

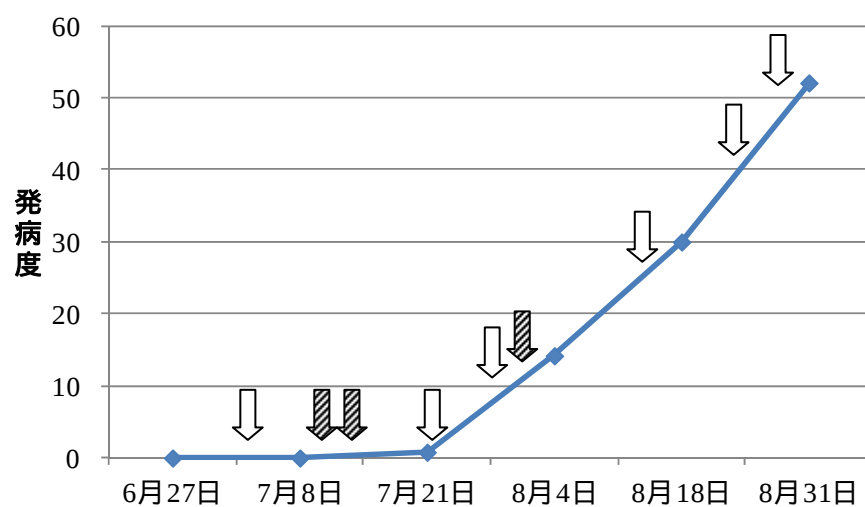


図1 殺菌剤散布と葉かび病の発病推移（生産者慣行防除区）

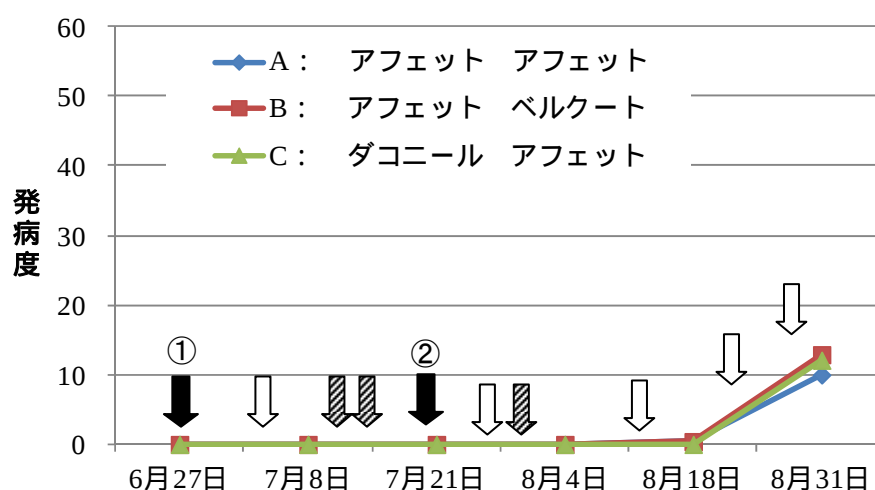


図2 殺菌剤散布と葉かび病の発病推移（試験区）

- ➡：生産者慣行に加える殺菌剤（図中の A、B、C）の散布日
- ➡：生産者慣行における殺菌剤の散布日
- ▨➡：生産者慣行における耐性菌の出現が認められている殺菌剤の散布日

注）発病度は以下の計算式で算出した。

a; 発病葉（小葉）が1枚／株、b; 発病葉（小葉）が2～10枚／株、c; 発病葉（小葉）が10枚以上／株、d; 全身の葉に病斑が認められ、黄化した発病葉が散見される。

$$\text{発病度} = (4d + 3c + 2b + a) \times 100 / (4 \times \text{発病株数})$$

[その他]

研究課題名：雨よけトマト葉かび病の多発要因の解明による総合防除技術の確立

予算区分：交付金（病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：2009～2011年度

研究担当者：川口 章、金谷寛子

関連情報：平成22年度試験研究主要成果、39-40

平成22年度試験研究主要成果、41-42